

《首都圏で秋田を発見するミニ研修散歩》令和元年12月7日実施

首都圏には、秋田にゆかりの「遺跡」が沢山点在しています。いずれも、秋田人として固有の生き方や価値観を追い求め、その時代を鮮烈に生き切った先人たちの足跡です。その前に佇むと、不思議に心が満たされ、精気が蘇ってきます。さあ、秋田発見の散歩に出かけよう！

①本物のハチ公とご対面！（上野国立科学博物館） 秋田犬：国天然記念物

ハチ公は大正13年(1924)現在の大館市から、現・渋谷区松濤に住む東大農学部教授・上野英三郎博士のもとに送られてきた秋田犬。上野に大変可愛がられ、上野の死後、渋谷駅前で飼い主の帰りを10年間も待ち続けたという。「忠犬ハチ公」の名で知られ、その忠犬ぶりは、映画・テレビ・アニメになり、戦前は教科書にも掲載された。昭和10年(1932)3月8日に死し、渋谷駅で盛大に告别式が行われた。青山霊園に上野英三郎博士と共に眠っている。



②了翁道覚禅師塔碑（上野寛永寺境内）都指定旧跡

現・湯沢市出身で、江戸初期の黄檗宗の僧。雲水となり全国を行脚し、観音の霊夢によって万能薬の《錦袋円》を考案。上野・不忍池畔に店舗を構え、収益金で寛永寺境内に経蔵や勧学寮(学問所)を創設した。収集した経巻典籍は一般にも閲覧を許可したことから、我が国公共図書館の嚆矢とされる。また、大火や飢饉の罹災者の救済活動に奔走し、江戸庶民に「如来様」と敬慕されたという。塔碑は高位の人物の墓碑等に用いられる亀趺(きふ)の上に立ち、表面に銘文が刻まれている。毎年、寛永寺の了翁堂で、忌日の5月22日に法要が営まれている。



③佐竹義隆寄進の銅燈籠（上野東照宮）国重要文化財

義隆は、初代藩主義宣の養子となり、義宣の死去により家督を相続、2代藩主として秋田藩の基礎作りに尽力したお殿様。義隆の名を刻む銅燈籠は2基あり、慶安4年(1651)4月17日、祭神・徳川家康の36回忌に、全国の諸大名と共に寄進したもの。台座に獅子・菊・唐草などの文様が浮き彫りされ、花袋の部分には飛天が彫り出されている。

